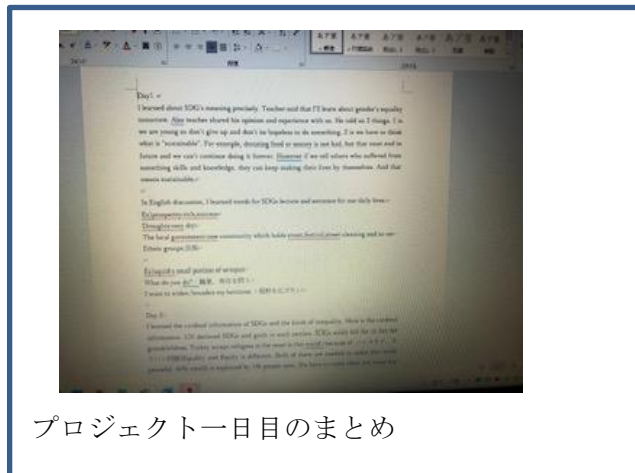


# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロジェクト一日目のまとめ

## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) S.N.  
所属 (School) 現代システム科学域  
マネジメント学類  
学年 (Grade) 1年  
留学先 (Name of overseas institution)  
Chiang Mai University  
留学期間 (study abroad period)  
2021/8/23~2021/9/3  
記入日 (Date) 2021/9/16

## 留学レポート Study Abroad Report

### ・留学を試みようと思ったきっかけ

高校生の時からSDGsに興味があり、大学生になったらSDGsについての理解を深めようと思っていたからである。また、英語力を他人と議論できるくらいまで向上させたいと思っていたためこのプログラムに参加した。

### ・オンライン留学のエピソード

このプログラムは期間は1日2時間(1時間講義、1時間英語のディスカッション)で2週間、人数は生徒12人で先生が2人(講義とディスカッション1人ずつ)で構成されていた。講義では、初めの2日間はSDGsを全体的に学び、その後の3日間でSDG 10「人や国の不平等を無くそう」に設定されている10のターゲットについてや、世界に遍在する不平等の種類(社会的不平等、経済的不平等など)、そのターゲットの多くは政府が責任を担うべきだということ、私たち自身が各々当事者意識をもって活動していかなければならないことなどを学んだ。また、世界の中には差別や不平等が文化的に根付いている国が多くみられ、いまだに偏見や差別を完全に排除するのは難しいことを知った。差別や偏見、不平等を減少させるために、私たちができることはボランティア活動やSNSを利用した情報発信である。お金や食べ物や物を寄付することも大切だが、これらの活動は持続することが難しいため、持続可能とは言えない。対照的に、現地の人に様々な技術を教えたりすることは、現地の人々の自立を促すため持続可能だと言える。我々ができることは限られており小さなものだが、その小さな活動の積み重ねが大切であり、当事者意識をもって活動を積み重ねることは不平等を減少させることに間違いなく貢献することを学んだ。二週間目の初めの三日間でベネズエラの経済危機やチェンマイ市に生じている不平等とそれらが生じた理由、難民問題、差別や不平等を減少させるための解決策の例を学んだ。ここではジェンダー差別を減らすためのプロジェクトや、ミャンマーのカーブ制による不平等を減少することに貢献した政治家の例が挙げられた。そして最後の二日間はクラスメイト各々のプレゼンテーションを発表した。私は、日本の子供の貧困について触れ、子ども食堂の増築や情報発信、子ども食堂に行って子供たちと実際に触れ合うことを解決策とした。

ディスカッションの中で私たちがどの不平等に属しているかを話し合い、日本国内では女性差別や、地方と都会の経済格差などがあげられた。最近では日本の文化的な面からくる男尊女卑は少なくなっているように感じているが、偏見や差別はいまだに残っているのに加え、女性と男性の間に生じる経済格差も問題視された。また、私が一番興味深かったと感じた議題は「我々の持つ最低賃金は格差を減少させることにつながるが、最高賃金というものは格差を減少させることにつながるのか」である。私は当初、最高賃金を設置すると市民の働くモチベーションがなくなり技術進歩が止まり、働き口が減ると思い、反対していた。しかし、賛成派の一人が「経済の発展は必要だけど、自己資産数十億円持っている人は生活するために本当にそれだけのお金が必要なのか。おそらく必要でない人が大半だろう。だからやはり経済的な不平等を減らすために、最高賃金の設置は必要である。」と言っていた。確かに生きる上で数十億円も必要ない。そ

れほど多くのお金がなくとも十分に生きていける。しかし、現実的に考えて資本主義の国は最高賃金の設置が難しく、経済格差を減らすには他の政策が必要である。改めて、経済的格差を減少させることは難しいことであることを実感させられた。それ以外にも、自分たちが常識であると思っけていても他人から見たら非常識かつ差別につながることもあるということを知り、それらを改正するのは非常に困難であることを思い知った。私はいつでも人の話を聞いて寄り添うことが大切だと思っけていたが、時には自らの信念に基づいて行動しなければ不平等、差別、偏見は減少しないということを知った。

### ・感想

上記以外にも初めて知ったことや話し合っけたことはたくさんある。SDG s についての知識を付け、SDGs 達成に向けて行動することは、自分たちのためであると思っけていたが、実際は自分たちの子供や孫のためであると知った。それ程 SDGs を達成することは難しく、年月がかかる。だからこそ今行動するべきであると強く感じる。このプログラムは自分に新たな気づきやアイデアを与えてくれた。心から感謝したいと思う。また、英語のスキルも上がったと感じる。講義とディスカッションは両方英語で行われたためスピーキングとリスニング力が向上した。また、ディスカッションで SDGs を語るために必要な単語を教っけていただき、語彙力も向上した。そのため、自分にとってはこのプログラムはまさに一石二鳥であった。これからもここで学んだことを忘れずに、より一層不平等を減らすための活動に勤しんでいきたいと思う。